

東港金属株式会社

東京都大田区京浜島2-20-4

電話 03-3790-1751

URL <http://www.tokometal.co.jp>

(見学受付: 電話03-3790-1751 又は 各営業担当)

日本中で猛暑日の記録が更新されたこの夏も、彼岸を過ぎて朝夕の涼しさにほっとする季節となりましたが、農作物には多大な被害のあり、気候変動による環境破壊は進んでいるようです。また温暖化だけでなく、物質文明の発達も使い捨てなどで地球へ負荷を与えています。

江戸時代は現代より物は不足していましたが、上手にリサイクルして循環社会を築いていました。今の資源有効利用促進法が、法律で決めていなくても意識として根づいていたのですね。学びたいものです。

東港金属では少量の産廃、スクラップでも処理のご相談に応じております。リサイクルパートナーとして気軽にご連絡下さい。



### ★羅針盤

## 鉄・非鉄スクラップ・市況からの10月予測

営業部 Y の考察

- 鉄スクラップ** → 考察) 東日本電炉の生産が9月上回る見通しがあり、品薄の市中スクラップの集荷で買い取り価格の上昇も見込まれるが、安値修正の動きもあり、様子見で大きな変動はないでしょう。
- 銅** → 考察) LMEの在庫減少等で上昇の気配はあるものの、上げを期待しての買いは危険と思われる。
- アルミ** → 考察) LMEの価格が国内価格に反映していないため大きな変動は無いと思われます。
- プラスチック** → 考察) 原油価格と為替を見ても横ばいに推移すると思われる。しかし、下がっているにもかかわらず、ペットボトルの入札では相変わらずの高値が出ているようです。

### 9月予測の自己評価

鉄スクラップ	×	アルミ	◎
銅	◎	プラスチック	◎



### 京浜島日記

(隔月連載 3)

羽田空港はいよいよ10月21日に新国際線旅客ターミナルがオープンします。この事は羽田空港から車で5分、運河を挟んですぐの京浜島にも大きな影響をもたらしてくれると考えられます。物流企業や空港関連のサービス企業は今後増加していくと考えられ、それに伴い京浜島の地価は高止まりするでしょう。我々廃棄物処理企業にとっては、プラスの面もマイナスの面も両方あります。

ただ、間違いなく言えることは地域が活性化するのは良いことで、羽田空港に近く、同じ大田区の企業である当社としても嬉しく思っています。企業が増えることで、再生原料となる物流系廃棄物は増え、24時間化する羽田空港の活動に対応する当社も24時間稼働しており、益々工場の稼働効率を上げていかなければならないと感じています。とかく不景気と言いがちな近頃ですが、まだまだこんなビッグプロジェクトがスタートするのです。「日本国内はもう駄目だ」なんて誰が決めたのでしょうか？ マスコミの安易な論調に踊らされず、我々自身の手で景気を活性化させたいものです。

それが羽田空港やこの京浜島から巻き起れば素晴らしい事です。(つづく)

(福田 隆 東港金属(株) 代表取締役)

### ★羅針盤

## 物流業におけるリサイクルとは？

物流業におけるリサイクルについて述べてみたいと思います。

弊社のある大田区京浜島は、羽田空港、大井ふ頭、品川埠頭、川崎埠頭、横浜港が近く、多くの物流企業の皆さまが集まっておられます。

物流企業から発生する廃棄物は、次の3つに分かれます。

- ① 物流副資材(梱包材等)
- ② 預かっている荷物が何らかの要因により廃棄される場合
- ③ 事務部門からの事業系廃棄物

特にキーポイントになる物流副資材の、環境対策&処理コスト削減の第一歩である分別について、とある物流企業A社の現場をご紹介しますことで詳しくレポートしたいと思います。

物流段階で発生するゴミはたいいどの企業、どの事業所でもほぼ同じです。ストレッチフィルム、ダンボール、PPバンド、ストレッチ以外のビニール類、発泡スチロール、エアークラップ、フィルムの芯、紙ゴミ、金属類などですが、A社では8分別を行っていました。

A社が分別を成功させた秘密はこんなに簡単なことでした。

- \* 広い場内には作業班単位毎にリサイクルの分別スペースが設けてあり、20m~30mに1箇所は分別スペースが確保されている。
- \* 開梱などを行う作業員のまわりには個人個人で工夫した分別ボックスや袋が用意されている。作業中の分別をどうすればよいか試行錯誤を繰り返した結果らしく作業員は個々の作業スペースや作業に合わせ分別の方法をアレンジしている。
- \* 分別をしながらも作業は非常に早い。分別で悩んだり、手間取ることもなく開梱作業がドンドン進んでいく。
- \* 各種のビニール類は素早くそれぞれの手が届く場所に置いてあるボックスに入る。決して床などに散乱したり、ひとつの袋に一度ストックをするということはない。
- \* とにかく、開梱と分別を同時におこなっている。(分別をしていない会社は「現場の反対があるから」「手間がかかるから」「人が足りない」「忙しい」「コストアップにつながる」と言いますが、これらの言い訳は、「めんどくさい」という意味なのだ分かります。)

A社では各所で分別された廃棄物は廃棄物置き場に集積される。この集積所もまた非常によく整理されている。分別された廃棄物は状態もよく、異物などもほとんど混ざっていない。ストレッチフィルムなども黒ずんだものはまったくない。同社周辺の廃棄物処理業者はこぞって同社の廃棄物を引き取りに来るとのこと。理由は、同社の廃棄物は分別が徹底されているのでリサイクルが容易で、買い手がすぐにつくからだという。引き取りを無料にする業者もいるということ。

A社のように分別さえ徹底していれば、おのずとリサイクルと処理コスト削減への道も開けてくるのだと教えられました。

「分別を徹底すれば・・・」とよく言われますが、それが難しいのです。このA社でもこれらの分別を根付かせるのに20年を要しているとか。これから分別を徹底しようとしている会社の物流部門でいきなり8分別を徹底することはないでしょう。まずは排出量が多いものを一つピックアップしてから分別を開始していくことをお勧めします。ストレッチフィルムや発泡スチロールなど目立つもの、かさばるものから始めるとコスト削減効果が大きいのでやる気もです。

そして、「ファーストタッチ分別」これがキーワードです。

物流部門における分別のポイントはA社のように「開梱をするその場で分別」を行うことです。ここで分別をすれば、物流部門の8割の対策はカバー出来ます。開梱作業をする作業員の周りにまずストレッチフィルムと発泡スチロールの専用箱(空きダンボールで十分)を設けてください。開梱して、ビニールに触ったファーストタッチで分別ボックスに入れていくことがポイントです。

まずは開梱作業をする現場への2時間の指導で分別は大きく進みます。

分別さえされていれば、ストレッチフィルムや発泡スチロールは買い手がつくのです。買い手がつくということは、廃棄物処理コストがそのまま削減=利益にできるのです。

分別できない言い訳はいくらでもありますが、実際に苦もなく実行している会社が存在していることも認識しておきましょう。これらの会社は環境対策を行いながら、処理コスト削減を着実にすすめています。

物流コンサルタントには「分別」のノウハウはありません。世の中には物流ソリューションなどと称してコスト削減を謳っているコンサルタントが多数おりますが、環境対策やリサイクルとコスト削減を行うノウハウは持っていません。

高いコンサルタントに相談して得られる結果よりも、タダでできる「分別」という工夫の結果削減できるコストのほうが大きいのです。

あなたの会社も是非マテリアルリサイクルのための一歩を踏み出してください。

